

# 第 39 回 独創性を拓く

## 先端技術大賞

### 開催要項

※2025年12月10日現在



産経新聞社

## 開催概要

- 名称： 第39回 独創性を拓く 先端技術大賞
- 主催： 産経新聞社
- 後援： フジテレビジョン、ニッポン放送、文部科学省（申請中）、経済産業省（申請中）
- 特別協力： 株式会社アカリク
- 趣旨・目的： 「先端技術学生論文表彰制度」は1986年に理工系学生の独創性と創造性をはぐくみ、研究への意欲を高めることを目的に創設されました。第16回より「科学技術創造立国」の実現には、産学官の連携や若手技術者の育成が不可欠との考えから、企業の若手研究者・技術者も表彰対象に加えて、名称も「独創性を拓く 先端技術大賞」と改めました。第39回を迎える今回も「学生部門」（対象：高専生、大学生、大学院生）「社会人部門」（企業・大学および関連機関・その他研究機関等）の2部門で募集します。
- 表彰内容：
- 学生部門 文部科学大臣賞  
フジテレビジョン賞  
ニッポン放送賞  
特別賞  
※特別賞は主に高専生を対象としますが、高専生の大賞受賞など他賞への入賞を制限するものではありません。
  
  - 社会人部門 経済産業大臣賞  
産経新聞社賞  
特別賞
- 募集期間： 2025年12月15日（予定）～2026年3月末日
- 審査： 2026年4月～6月＝第1次審査(事務局による書類審査)・第2次審査・最終審査
- 発表： 2026年6月(産経新聞紙上)
- 授賞式： 2026年7月（7月22日予定）
- 主な来賓： 高円宮妃殿下  
文部科学大臣、経済産業大臣、受賞企業・大学、協賛企業等の幹部

## ■ 制度の内容(論文募集の対象範囲、方法、規定など)

### ①募集対象範囲

- ・「学 生 部 門」：国・公・私立大学の学生・大学院生、工業高等専門学校生およびこれらの学生グループによる「技術論文」。留学生も可。
- ・「社会人部門」：2024～25年度に発表した企業・大学および関連機関・その他研究機関の研究開発成果(近い将来の実用化を見据えた技術論文、新製品などあらゆる研究開発)で、研究者、研究グループ代表者の年齢がおおむね40歳以下の若手研究者、技術者。

◎**技術論文**は、日本語で書いた未発表のもの(部分的に学会誌などに発表したものは可。ただし発表先を明記)。将来への夢をかけた独創性、創造性溢れる論文。字数は12,000文字以内を目安(図表、謝辞は字数に含まない)。テーマは自由。

※応募論文等は返却しません。

※提出期限を過ぎたもの、募集規程に沿っていない場合は事務局、審査委員会で審議の上、審査対象から除外する場合があります。

※入賞論文は産経新聞または弊社が発行する印刷物等に掲載予定。

※入賞論文の著作権は産経新聞社に帰属するため、学会誌・業界誌に投稿した論文などをそのまま用いることはできません。一般の新聞読者も一定の理解ができることを考慮して文章化すること。

ただし、専門用語を排除するものではありません。

### ②募集分野とテーマ

A	エレクトロニクス・情報	E	機械・土木・建築
B	AI・ロボット	F	化学・材料
C	バイオ、生体・医療、医薬、食品	G	数学・物理・データサイエンス
D	環境・エネルギー	H	ノンセクション(A～Gの複数領域にまたがるか、この領域外のテーマ)

### ③審査基準

- ・「学 生 部 門」：独創性、先端性、論文構成力などの観点から審査。研究内容などに加え、学生らしさも評価の対象。
- ・「社会人部門」：独創性、新規性、潜在的可能性、実用性、市場性(市場に出したいという強い意志も可)などの観点から審査。

◎審査では専門性にとどまらず、論文構成力など多面的に審査を行います。

◎審査には専門の審査委員の方以外もあたります。

### ④応募方法

下記の応募申請書類(データ)を、事務局宛にご提出ください。

1)論文またはレジメ(WordとPDF)(※1)	2)事務局指定の応募用紙(Excel)(※2)
--------------------------	-------------------------

◇応募申請書類について

- ・上記1)、2)のデータは、メールで事務局宛にご送信ください。出力紙のご送付は不要です。
- ・ファイルサイズが大きい場合は、オンラインストレージをご利用ください。郵送(CD-R等)でも結構です。
- ・応募用紙は、ホームページからダウンロードしてください。<https://www.sankei-award.jp/sentan/bosyu/index.html>
- ・論文またはレジメの書き出しは下記に準じてください。  
(1. 第39回先端技術大賞応募論文、2. 論文タイトル、3. 氏名と所属、4. 緒言(序論))
- ・手書き原稿は不可(参考：前回の入賞論文<https://www.sankei-award.jp/sentan/jusyou/index.html>)

※1 論文またはレジメのデータは、**WordとPDFの2種類をご提出ください。**

専門性の強い特殊なソフトウェアを使用している場合は、Wordに変換してからご提出ください。

※2 応募用紙のデータは、Excelをご提出ください。

### ⑤運営組織

「審査委員会」、「表彰制度委員会」を置く(次ページ参照)。

- ・「**審査委員会**」：理工系分野の大学教授と企業の研究開発担当役員などで構成する。各委員は、産経新聞社が審査項目別に委嘱する。
- ・「**表彰制度委員会**」：文部科学省、経済産業省、フジサンケイグループ関係者で構成。本表彰制度がより客観的、公平であるために、必要に応じて助言・指導するとともに、下部組織である事務局を通じ表彰制度の運営にあたる。

## ⑥募集活動

フジサンケイグループの媒体を通じ、企画の趣旨を広く告知するとともに企業や関係大学教授、研究室にも別途趣旨を説明します。

### ■募集から表彰までの日程

- \*募集期間：2025年12月15日（予定）から2026年3月末日
- \*審査期間：2026年4月1日から6月上旬
- \*入賞者発表：2026年6月
- \*授賞式：2026年7月22日（予定）

### ■審査委員会

審査委員長 清水 昌(京都大学 名誉教授)

#### <学生部門>

##### エレクトロニクス・情報

宮地 充子(大阪大学大学院 大学院工学研究科 教授)

##### バイオ、生体・医療、医薬、食品

清水 昌(京都大学 名誉教授)

柳田 敏雄(大阪大学大学院 特任教授)

※社会人部門の審査委員も兼任

##### 材料・化学

箕浦 真生(立教大学 副総長 理学部・大学院理学研究科 教授)

##### AI・ロボット

藤本 浩志(早稲田大学 人間科学学術院 教授)

##### 環境・エネルギー、機械・土木・建築、数学・物理・データサイエンス、ノンセクション

審査員全員

#### <社会人部門>

##### エレクトロニクス・情報

田井 一郎(元株式会社東芝 副社長)

##### バイオ、生体・医療、医薬、食品

井口 雄一朗(東レ株式会社 上席執行役員 研究本部長 基礎研究センター所長)

倉根 隆一郎(中部大学 フェロー)

##### 材料・化学

後藤 芳一(公益財団法人共用品推進機構 共用品研究所 所長)

##### AI・ロボット、環境・エネルギー、機械・土木・建築、数学・物理・データサイエンス、ノンセクション

審査員全員

### ■表彰制度委員会(予定含む) ※2025年12月時点

委員長	産経新聞社	代表取締役社長	近藤 哲司
委員	文部科学省 高等教育局	専門教育課長	松本 英登
	経済産業省 イノベーション・環境局	研究開発課長	菊川 人吾
	ニッポン放送	代表取締役社長	檜原 麻希

(敬称略)

## ■組 織

- \*表彰制度委員会： 各賞授与の官庁首脳、フジサンケイグループ関係経営トップで構成。本制度の企画・運営および受賞候補者の最終判断にあたる。
- \*事 務 局： 諸計画の立案と実行
- \*授賞式実施本部： 授賞式前に組織。同式典の運営を行う

## ■表彰の方法

応募された研究成果・論文は先端技術大賞表彰制度委員会事務局で管理し、各審査分類項目別に整理して審査、点数制による採点を行い、分類項目別に優秀研究成果・論文を決定、さらにこの中から最優秀研究成果・論文を決定します。

## ■表彰の内容 (予定含む)

- ①学生部門
  - ・文部科学大臣賞
  - ・フジテレビジョン賞
  - ・ニッポン放送賞
  - ・特別賞

※特別賞は主に高専生を対象としますが、高専生の大臣賞受賞など他賞への入賞を制限するものではありません。
  
- ②社会人部門
  - ・経済産業大臣賞
  - ・産経新聞社賞
  - ・特別賞

### 【先端技術大賞表彰制度事務局】

〒100-8079 東京都千代田区大手町 1-7-2 産経新聞社内  
E-mail : [sentan@sankei.co.jp](mailto:sentan@sankei.co.jp) URL : <https://www.sankei-award.jp/sentan/>